

ールの対応方向案をまとめる予定だ。

自民党では、今月8日 対応方向に関する提言を 交付対象水田ルールの 取りまとめた。

病気に強いイネ期待

近大 免疫活動の仕組み解明

外部から病原菌が侵入してきた際、イネの栄養を成長から免疫活性化に、病原菌を退治した後はふたたび免疫活性から成長へと切り替える酵素の働きを近畿大学農学研究科・アグリ技術研究所の川崎努教授や一丸航太氏、山口公志講師らのグループが解明した。将来、病気に強いイネの開発につながる事が期待される。

ない通常時はPBI1がWRKY45の免疫作用による不要なエネルギー消費を抑えエネルギーをイネの成長に向け、感染時はPUB44がPBI1を分解してWRKY45による免疫作用にエネルギーを傾ける。

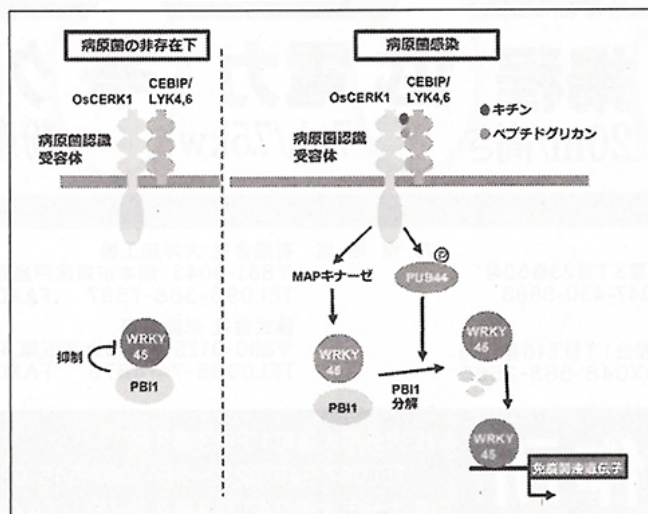
川崎教授は、「ゲノム編集などの技術によってPBI1とWRKY45の両方を通常より多く発現させることで、病気に強いイネの開発につながる」と展望を述べている。

川崎教授らはこれまでイネの耐病性研究に取り組む、病原菌に感染した際に発せられるシグナルに反応してイネの免疫活動を制御する「PUB44」というタンパク質を発見してきた。今回、イネの免疫作用で重要な役

割を果たす「WRKY45」というタンパク質を制御している「PBI1」というタンパク質を新たに発見し、PUB44がPBI1を分解することでWRKY45が働き始めるという仕組みを解明した。

科学雑誌に掲載
大阪大学蛋白質研究所、横浜国立大学、岩手生物工学研究センター、農業・食品産業技術総合研究機構との共同研究。5月16日に科学雑誌「Nature Communications」に掲載された。

通常時のイネでは、WRKY45の働きをPBI1が抑制し、病原菌が侵



免疫システムの仕組み